

「インディバ®」の多様性、新たな活用法を学べる 恒例の「第22回インディバ®・コンベンション」大盛況

スペインで生まれ、世界中の多分野で活用されている高周波温熱器、「インディバ®」。
日本で「インディバ®」を販売する株式会社インディバ・ジャパンでは2023年11月11日、
東京の京王プラザホテルで、毎年恒例のイベント「第22回インディバ®・コンベンション」を開催しました。
当日はインディバ®を導入しているエステティックサロンや美容クリニック、治療院のユーザーが集結。
研究者やユーザーによる「インディバ®」の新たな視点や活用法の発表に新しい発見、気づきを得たようです。



「インディバ®」のユーザーや研究者が成果を発表する「第22回インディバ®・コンベンション」。

「インディバ®」は、0.448MHzという独自の周波数により、体の内側から温める「深部加温」はもちろん、熱をほとんど発生させない「非熱」、そして電流自体にも作用を持つ高周波温熱器です。世界中で健康寿命の延伸やQOL(クオリティ・オブ・ライフ)に貢献してきました。

2023年、22回目となった「インディバ®・コンベンション」は、「インディバ®・ファミリー」(「インディバ®」のユーザー)が待ち望んでいたイベントです。

株式会社インディバ・ジャパンの山口祐司代表取締役会長の開会挨拶で幕を開けるのが恒例です。挨拶に次いで、時流を交えた山口会長の談話も通例なのですが、今回は様子が違いました。「おはようございます。(盛りだくさんの内容なので)今回は挨拶は15秒までとされているので、以上です(笑)」と、山口会長。

そうです。ラモン・イ・カハール大学病院名誉研究員で、長年「インディバ®」の周波数の研究に携わっているアレハンドロ・ウベダ先生の特別講演、皮膚の修復と再生における「インディバ®」の臨床結果に始まり、さまざまな分野から多数の研究成果や報告、新たなメソッドに活用法などが紹介され、あっという間に時間が過ぎていくほどの充実ぶりなのです。

「インディバ®」は美容、医療やアニマルケアの分野で、医療機器認可を取得している「インディバ®・アクティブ」は、スポーツや鍼灸・整骨院での治療領域で幅広く導入され、多くの実績と高い信頼を得ています。「第22回インディバ®・コンベンション」で

は、さまざまな分野のスペシャリストが登壇。美容分野からは、顔への施術にとどまらないフェイシャルリフトアップや「インディバ®」ならではのブライダルメソッドなどが披露され、医療分野からは、再生医療やダーマベン施術など美容医療や、歯周統合医療での活用例の報告がありました。

「インディバ®・アクティブ」でも歯科領域から発表が。こちらは骨結合の促進、顎関節症や歯ぎしり解消での施術効果が紹介されました。

さらにアスリートの「必要な機能の回復」「最短での競技復帰」を可能にするための、効果的な使用法や、小顔矯正への利用という美容方面からのアプローチも披露されました。また、近年導入が進んでいるアニマルケア分野からは、競走馬への施術で筋肉の硬さや痛みが減少しているという発表も。

10時の開会から17時過ぎの閉会まで、驚きと学びの連続です。しかし、一息つけるコーヒープレイクは、場内がいっせいに和みます。最新の「インディバ®」機器やスカルプチャーを実際に見られるコーナーや、「インディバ®」関連企業の出展ブースも大勢の方が訪れました。

コロナ禍に志をともにする「インディバ®・ファミリー」の近況報告や情報を共有する場面があちこちで見られました。

「いろいろな視点から『インディバ®』を改めて知ることができた」などの声が多く、新たな活用法に触れ、たくさんの気づきを得た一日になったようです。